

第 1 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会における主な意見

1. 学識委員

- 多様な地域を結びつけるには結節する部分がそれぞれのゲートになり、更にまちに広がりをもたせるような空間構成とする必要あり。
- まちづくりにはステップが必要で、まずは2020のオリパラのときに情報発信し、地域のブランディングが打ち出せるかが鍵。
- まちは、かつて寛永寺の門前町としての性格をもっていたが、今後いかに多様な目的の受け皿となるか検討すべき。
- 「上野らしさ」について、今の時代として再定義をする必要あり。他地域と比較して周回遅れ状態であり、他とは全く違う別の価値観を持ち込む必要あり。
- 上野には歴史の重層性があり各時代で文化的な中心性を求められてきたまち。その歴史的に多様な資源がいかに一体感を持ったものとして打ち出せるかがポイント。

2. 区民委員

- まちのなりわいや歴史の中に今のまち全体が形成されているという視点を忘れて、ただ新しくするのはだめ。まちの人たちはみんなまちに対する愛情が非常に高い。
- 上野の山と駅とまちとが一体化することで、回遊性の向上や長時間滞留を実現し、快適なまちとする必要あり。安心・安全なまちとし、何度も来訪してもらえるようにしたい。
- 他のクローンをつくるのではなく、新たな道を模索すべき。滞留時間を長くさせるためには、新たなコト消費によらなければ、今後成り立っていかない。

3. 鉄道事業者委員

- 鉄道敷地がまちの中心にあり、まちを分断している中で、いかにまちを活性化するために資することができるか検討したい。
- 上野駅は交通結節機能の改善が課題で、鉄道同士や、鉄道とバス、車の乗り換え等を含めて、広場空間等をいかに整備するかが課題。
- 今後訪日外国人のお客様を多くお迎えすることが予想され、他線との乗り継ぎを大切に考えたい。

4. 関係機関（国）オブザーバー

- 上野は関係者が多く、都市基盤の整備は関係者調整が大事で、全員で議論ができる場合は非常に大事である。
- まちと道の成り立ちの経緯から、まちの中に大きな道路が走っているという構造が多く、いかに道路が邪魔にならないようにまちづくりと一緒にになって取り組むよう意識したい。

5. 関係機関（東京都）オブザーバー

- 公園への来園者に対し、まちのイベントとの連携やわかりやすいマップをつくるなど、ソフト的な対応も必要。
- 公園が人を引きつけて、来園者が居心地よく過ごせる公園を目指すため、地域の思いや期待に耳を傾けたい。